

小笠原諸島世界自然遺産登録10周年 島内企画報告

■パンフレットの作成【小笠原村】

- ・目的：小笠原の自然遺産の価値と遺産管理のための取組に関する普及啓発に用いるため。
- ・方法：島内関係者はじめとした村民や有識者、過去の行政関係者23組31名へのヒアリングと当時の資料提供依頼を実施（R2年度の遺産に関する村民意見交換会を個別のヒアリングに替えることで、村民意見等の把握に努めた。）
- ・時期：令和2年度中にヒアリング、令和3年4月に編集、6月頃に完成、全戸配布。
- ・構成：小笠原の自然遺産に関わってきた人々へのインタビュー形式で1年ごとにまとめて、10年間を振り返る。



- ・表題：小笠原諸島世界自然遺産 登録から10年の軌跡
「進化と変化を続ける島々の自然と暮らしを紡ぐヒトビト」

■世界自然遺産に関する村民意向の把握【小笠原村】

- ・目的：村民が遺産に関して肌で感じていることを広く把握し、遺産に関する取組を今後も進めていく際の参考とする。平成27年時の同調査との意向の変化を検証する。
- ・方法：全戸配布（世帯向け：39問）と学校配布（小5・6年向け：2問、中高生向け：27問）によるアンケート調査
- ・時期：令和3年6～7月
- ・内容：自然環境の利用頻度、遺産への希望と期待、遺産と生活、取組の認知度、村民と行政の連携、小笠原の生き物：Oganimals人気投票（トップ10はノベルティ写真に採用）
- ・結果：世帯の34.5%（494/1,433世帯）、小学5～6年生59名、中高生120名から回答
詳細はH.P.に掲載 https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/kankyo/kankyo_keihatsu/

■ノベルティの作成（写真&写真立て）【小笠原村】

- ・目的：小笠原の遺産価値の礎となっている生き物を魅力的な写真とともに紹介することで、遺産を身近に感じてもらうため。併せて小笠原の外来樹木を活用した写真立てをセットにすることで取組の普及啓発も図る。
- ・方法：全戸配布
- ・時期：令和3年12月頃
- ・内容：小笠原の生き物トップ10の写真カードとアカギ・リュウキュウマツで作成した写真立て
- ・分量：紙部分：180×110mmの両面フルカラー12枚
木部分：180×38×13mm



【構成一覧】

◎：フォトコン入選作品

表面（写真）	裏面（カレンダー・紹介文）	表面（写真）	裏面（カレンダー・紹介文）
趣旨・風景写真◎	1月 環境課長挨拶	ヒメツバキ◎	7月 和田美保氏
ザトウクジラ◎	2月 辻井浩希氏	オガサワラ カワラヒワ	8月 川口大朗氏
アカガシラ カラスバト◎	3月 おが高生	イルカ◎	9月 森恭一氏
オガサワラ オオコウモリ	4月 鈴木直子氏	アオウミガメ◎	10月 近藤理美氏
ハハジマメグロ◎	5月 川上和人氏	オガサワラ オカモノアラガイ◎	11月 庄子恭平氏
オガサワラノスリ◎	6月 千葉夕佳氏	写真立てが できるまで	12月 橋尾昌義氏

■島内パネル展【管理機関 現地事務局】

- ・目的：小笠原の自然環境、遺産価値についての展示が充実している小笠原世界遺産センター、小笠原ビジターセンターにて、それらの取組と関わる人達を紹介することで、遺産管理のための取組への理解を促す。開館していればいつでも来館可能なため、遺産に関する普及啓発の裾野を広げることが期待できる（R3年度の遺産に関する村民意見交換会を個別のヒアリングに替えることで、村民意見等の把握に努めた。）。

- ・時期：父島：令和3年11～12月
母島：令和4年2月11～13日

・企画展名と趣旨

「進化と変化を続ける島々から聞こえてくる声」

「声のヌシ」として、遺産や自然保全に関わる「紡ぐヒト」と生き物（在来種、外来種）が登場する。その他、オガサワラグワの紹介展示や子ども向けのスゴロク等の体感型展示も実施する。

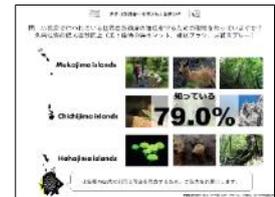
父島ではビジターセンターと遺産センターでの合同企画となることから、常設展示を活用し、「知っている人が登場するなら見に行こうかな」となることを狙い、島民も行きたくなる、両施設に来館する仕掛けを工夫。母島では全ての展示物を村民会館に展示。

・展示内容 ：ビジターセンター ：遺産センター

- ・列島から聞こえてくる声：パンフの23組と父島20組、母島10組が登場 聳・父 母
- ・年表 小笠原誕生～2016年 常設展示の年表の右側に2017～2021年を追加
- ・個性派Oganimals（在来種）ベスト10（両施設5種ずつ展示）
- ・黒船軍団（外来種）10選（両施設5種ずつ展示）
- ・オガグワの集い展 （オガサワラグワの紹介、R1講演会データを活用、実物展示）
- ・紡ぐヒトビトの声：意向調査結果を常設展示にA3サイズ×13枚を両施設にちりばめる
- ・すごろく 都R 環境省作成 →ゴールしたら景品（しぶや木工製作のアカギトンボ）
- ・フォトコーナー フォトプロップス 顔はめパネル



【展示風景】



このままでは危ない
 自然環境の破壊が進み、自然が壊れていってしまうと...
 自然環境の破壊が進み、自然が壊れていってしまうと...
 自然環境の破壊が進み、自然が壊れていってしまうと...



■番組制作【管理機関 現地事務局】

・目的：小笠原の父島、母島、無人島の自然環境とそこで行われている保全対策、それに関わる人達を取材し、村民が普段見ることのできない無人島等の状況を、映像を通して伝えることで、遺産管理のための取組への理解を促す。映像配信であることから、外出せずに見ることが可能なため、様々な人が視聴することにより、遺産に関する普及啓発の裾野を広げることが期待できる。10周年が終了した後も、遺産価値や保全の取組を島内外に紹介するためのツールとして使用する。

・分量：30分程度×7番組

・時期・配信方法：

令和4年2月20～26日に小笠原村ケーブルテレビで放送

3月からネット配信（YouTubeチャンネル）

URL：<https://www.youtube.com/channel/UC0ccXaD05JaIXPr6AyRG0KQ>

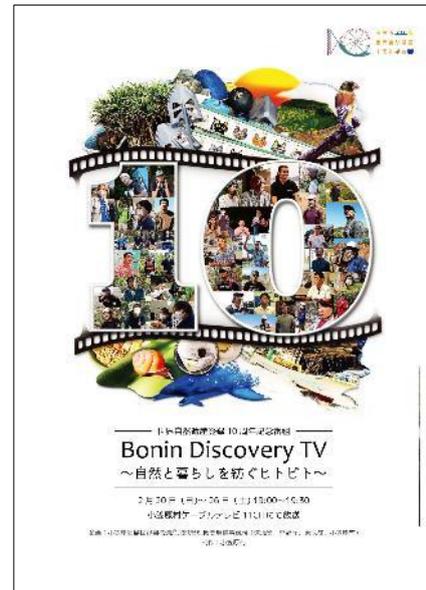
QRコード→



・広報：A4両面で番組名と趣旨、番組表が入ったチラシを2月中旬に全戸配布

・全体番組名：Ogasawara Bonin Discovery TV ～自然と暮らしを紡ぐヒトビト～

・趣旨：世界自然遺産に関連する人物もしくは団体にスポットを当て、そこから自然環境、取組の紹介まで話題を広げる。



Bonin Discovery TV ～自然と暮らしを紡ぐヒトビト～

世界自然遺産登録10周年を記念し、7つの番組を制作しました。進化と変化を続ける小笠原の島々で、自然を「未来へ」と「暮らし」と知れ人々リスガットを当てています。
 また、小笠原の身近な自然や生き物を紹介するショート映像「オガモニツ」が各番組のどこかで流れます。

<p>2/20日 19:00～ ガラス張りの部屋のナゾ</p> <p>小笠原の遺産価値やその保全対策に関する展示が楽しめる小笠原世界遺産センターには、“ガラス張りの部屋”があります。この“保護観察室”の謎に迫ります。 小笠原固有のカタマイマイ類と見出しガリワラハンヨウ保全の取組や見島・我島の自然も紹介しています。</p>	<p>オガモニツ「島の生き物探検」 「保護観察室」ショート映像</p> 
<p>21日 19:00～ UMIGOMI</p> <p>世界のどこかの所で捨てられたゴミは、海上を漂い、小笠原の海岸や洞に流れ着き、人と自然に様々な影響を及ぼします。 そのような海「ゴミの現状」と、子どもたちによる海洋清掃、日々「ゴミを拾う人たち」、そして回収されたゴミの行き先を取材しました。</p>	<p>オガモニツ「編み物や手織物の島」 「ゴミの現状」 「海洋清掃の取組」 「ゴミを拾う人たち」</p> 
<p>22日 19:00～ オガヒワを知っていますか？</p> <p>みなさん、オガヒワを知っていますか？ オガヒワことオガサツラカワヒワは、今は奇島列島にしが牛息しておらず、近年絶滅の危機に瀕しています。このオガヒワを守る人達に迫りました。 オガヒワの繁殖地である奇島列島の向島の自然の様子も併せてお伝えします。</p>	<p>オガモニツ「知っている？オガヒワのメロメロのあれこれ」 「島の暮らし」</p> 
<p>23日 19:00～ エコツアーのその先へ</p> <p>自然を持続的に利用しながら、健力を伝える“エコツーリズム”。その先進地である小笠原では、これまでどのような取組が行われ、これからどのような未来があるのでしょうか。父島・母島の各ガイドと村長の対談を通して、小笠原の今のエコツーリズムとその先を尋ねてみます。</p>	<p>オガモニツ「編み物や手織物の島」 「エコツアーのその先へ」 「島の暮らし」</p> 
<p>24日 19:00～ おがキャンプロジェクト</p> <p>小笠原には、山にいるネコと洞にいる美しいネコ2種類のネコがいます。どちらのネコも幸せになれるようにする取組は、野生動物が安心して暮らせる環境づくりにもつながります。ここでは、小笠原の山で保護されたネコが、本島で幸せに暮らせるようになるまでを取材しました。</p>	<p>オガモニツ「オガヒワ」 「おがキャンプロジェクト」 「島の暮らし」</p> 
<p>25日 19:00～ 秘境の島</p> <p>30余りの島々からなる小笠原群島。父島から西に約130kmの西之島、母島から南に約160kmの北崎島、さらに135kmの崖絶頂島。これらの島は、ほとんどの人が立ち入ったことがない秘境の島です。この3島の貴重な景観を、現地に行ったことがある人のインタビューを交えてお伝えします。</p>	<p>オガモニツ「おがキャンプロジェクト」 「秘境の島」 「島の暮らし」</p> 
<p>26日 19:00～ 現場は無人島 ～世界遺産の黒子たち～</p> <p>「自然を守る」といって、生き物の専門家や地元のNPO、行政がイメーজしますが、ちょっと待ってください！一見、ヘルメットをかぶって土木現場にいそいそと、小笠原の自然を保全している人達がいいます。 彼らの仕事現場である無人島、線島、我島の自然の様子も併せてお伝えします。</p>	<p>オガモニツ「オガヒワ」 「現場は無人島」 「島の暮らし」</p> 

放映後、YouTube 配信します。詳細は村民局より3月、小笠原村環境総合ホームページに掲載予定です。

■住民参加・普及啓発等～村民意見交換会～

進捗状況

実施年	時期	実施形式	内容・テーマ
H24	秋・冬	ワークショップ	「村民生活」、「遺産価値の保全」(登録後に生じた地域の課題)
H25	冬	意見交換	「環境教育」、「観光関係」、「新たな外来種侵入防止対策」
H26	夏・冬	意見交換	オオコウモリ、ノネコ、ネズミなど暮らしと関わりの深い内容
H27	秋	ワークショップ	「遺産登録100年後の小笠原」、「動物と暮らすということ」
H28	春	発表・質疑応答	行政の取組を発表し、村民からはネズミ・アノール対策等の意見
H29	春	グループディスカッション	・行政の取組、ガラパゴス現地調査結果を紹介 ・「父島/母島列島PR作戦」をテーマとしたアイデア出し
H30	秋	ワークショップ	・行政、地元団体、研究者からの取組発表 ・父島/母島で大切にしたい・守りたい場所をマップ化
R1	夏	オガグワの集い	オガサワラグワについての行政、関係団体からの発表とワークショップ
R2 R3	随時	ヒアリング	・遺産に関わった人、登録時から住んでいる人等を対象に実施 ・ヒア結果→遺産登録10周年パンフレット・島内パネル展

本取組の目的

- ◆遺産登録後の観光・生活の変化や遺産価値等についての意見交換
- ◆外来種対策などの具体的取組に関する情報共有

これまでの経緯

- ◆平成24年度に登録1周年事業として開始
- ◆以降、毎年1～2回程度、父島・母島でそれぞれ開催

課題・今後の対応

- ◆各機関が連携して取組を継続
- ◆遺産の親近化、目的の明確化
- ◆裾の広い村民に参加してもらえるようテーマや実施方法、呼びかけ方法を工夫